

**落ちこぼれが
難関資格に
短期一発合格
した方法**

松村保誠

※当レポートの著作権は作成者松村保誠に帰属しています。
作成者に無断でのあらゆるメディア・媒体における掲載・転用は著作権法違反となりますので
ご注意ください。

はじめに

このレポートでは松村がサラリーマンとしての激務をこなしながら、宅建に 3 週間、マンション管理士に 1 ヶ月、1 級 FP 技能士試験に 1 ヶ月、行政書士試験に 3 ヶ月で一発合格した学習ノウハウの肝の部分をお伝えしています。

私は小学生の頃、大変な落ちこぼれでした。

それも「できるのにやらなかった」だけの、「なんちゃって」の落ちこぼれではなく、高度な学習障害を抱えた本物の落ちこぼれでした。

実際、担任の先生には完全に見放されていて、何度もいわゆる養護学級に移ることを勧められていたぐらいですから。

そんな私が難関資格にも短期一発合格できるようになったのは落ちこぼれでさえ、あっさり成果が出る非常に強力な勉強法を身につけることができたからに他なりません。

この勉強法を腑に落ちて理解し、確実に実践することができたなら、どなたでも難関資格に短期合格を果たすことが十分できるようになるはずです。

そう、このマニュアルに書かれているのは、これからのあなたの人生を激変させる可能性さえ秘めている非常に価値のあるノウハウなのです。

ですので、決して流し読みなどせず、一字一句、噛んで含むようにしてお読みください。

それでは次ページより早速、具体的な方法論について解説していきます。

資格試験に合格するために重要とされる方法論は数多くあります。

誰もが耳にしたことのあるようなものにかぎっても 30 個程度は存在するのではないでしょうか。

しかし、このレポートではたった 3 つの方法論しか取り上げていません。

その 3 つの方法論をしっかりとおさえることができれば、それだけで学習効率が飛躍的に向上するはずだからです。

これら 3 つの方法論と比較すると、それ以外のことは、重要度がかなり落ちます。

ですので、まずはこの 3 つの方法論を確実に抑えるようにして下さい。

それでは以降、一つずつ解説していきますね。

1. ロケットスタートを切る。

学習の場面ではよくラストスパートの重要性が語られますが、私はラストスパートをかけることよりロケットスタートを切るの方がはるかに重要だと考えています。

学習した内容を記憶するためには、特に勉強したての間もない頃にこそ、頻繁に思い出してやる必要があるからです。

具体的には、以下のようなタイミングで繰り返し、思い出してやる必要があります。

- 1 回目 最初に覚えてから 1 日以内
- 2 回目 1 回目思い出してから 1 週間以内
- 3 回目 2 回目思い出してから 1 か月以内
- 4 回目 3 回目思い出してから 3 か月以内
- 5 回目 4 回目思い出してから 6 か月以内

※エビングハウスの忘却曲線に基づく概算の期間です。

注目して頂きたいのは1回目、2回目あたりのタイミングの早さです。

かなり短いですよ。

ところが、勉強を始める時というのは、ほとんどの方がスロースタートになります。

はじめて学ぶことなので「じっくりとやろう」ということなのでしょう。

しかし、そうすると当然、1回目、2回目あたりのタイミングというのは全く守れていないわけですね。

その結果、学習内容をほぼ忘れてから復習することになり、いつまでも記憶ができない状態で足踏みすることになってしまうのです。

では、どうすれば、こういう事態に陥るのを防ぐことができるのでしょうか？

もう、おわかりですね。

そう、表題のとおり**ロケットスタートを切れば**いいわけですね。

ロケットスタートを切って、とりあえず1回目、2回目の思い出すタイミングを守ってやれば、後は非常に楽になります。

なにしろ、3回目、思い出すのは2回目思い出してから1か月以内でいいのですから。

では、ここで私が宅建試験に3週間で合格した時の学習スケジュールを見てみましょう。

- 1日目 権利関係の全内容
- 2日目 権利関係の全内容の復習
- 3日目 宅建業法の全内容
- 4日目 宅建業法の全内容の復習
- 5日目 法令上の制限の全内容
- 6日目 法令上の制限の全内容の復習
- 7日目 権利関係の全内容の復習
- 8日目 宅建業法の全内容の復習
- 9日目 法令上の制限の全内容の復習

.....

1回目、2回目の思い出すタイミングを守ることをできているのが、おわかりになりますかね。

ここまではマジでしんどかったですよ。(笑)

一日10時間以上、勉強した日もあったと思います。

でも後は楽勝でした。

しつこいようですが、3回目、思い出すのは2回目思い出してから1か月以内でいいのですから。

そう、私、松村が3週間という短期間で宅建試験に合格することができたのは、決して能力が高かったからなどではなく、1回目、2回目の思い出すタイミングを守ることができたからなのです。

このことを知って意識的に活用すると、どんな試験でも、かなり楽に戦えるようになります。

さらっと書いていますが、とんでもなく重要な話ですよ。

半年、勉強しても合格できない人と3週間の勉強でも合格してしまう人を分けるような話です。

是非、しっかりと活用するようにして下さいね。

2. 絞り込む。

試験に合格するのに必要な情報の量を見極め、絞り込むということです。

それを**最初の時点**でやってしまうわけですね。

勉強をやっている途中で、じゃないですよ。

必ず、最初の時点でやって下さい。

結果的に捨てるようなことを少しでも勉強するのはタイムロスになるからです。

あなたはパレートの法則というのをご存知でしょうか。

イタリアの経済学者ヴィルフレド・パレートが発見した法則で俗に「80 : 20 の法則」などとも呼ばれることがあります。

どういう内容の法則なのか、ものすごく簡単に言いますと
「原因となっていることの上位 20%が結果の 80%を生み出している。」というものです。

たとえば

- ・ 営業成績上位 20%の社員が売上の 80%をもたらしている、とか
 - ・ 上位 20%の納税者が所得税の 80%を負担している
- といったことです。

そして、このパレートの法則は、経済に関連することだけでなく、広くあらゆる事象に当てはまると言われています。

はい、もちろん資格試験の勉強にも、ですね。

資格試験の勉強の場合は、さしずめ、こういうことになるでしょう。

「上位 20%の重要事項をマスターすれば、80%の問題に正解できる。」

よろしいでしょうか。

大事なことなのでもう一度書きますね。

「上位 20%の重要事項をマスターすれば、80%の問題に正解できる。」

めちやくちやに重要な話ですよ。

さらに重要なことをお伝えします。

覚えるべきことを減らすとそれを完全にマスターするために必要な時間は、それ以上の割合で減少します。

これは直感的にもおわかりいただける話ではないでしょうか。

500 個のことを覚えるのに 50 時間かかるとすれば、1000 個のことを覚えるのに必要な時間は 100 時間では済みませんよね。

覚えるべきことが増えると、それを忘れないようにするための労力が飛躍的に増えることになるからです。

一説には覚えるべきことが増えると、覚えるのに必要な労力は、覚えるべきことが増えた割合の 2 乗分程度に増加するとも言われています。

つまり、覚えるべきことを 500 個から 1000 個に増やすと覚えるのに必要な労力は 2 倍ではなく $2 \times 2 = 4$ 倍に増えるということです。

そして、この効果は覚えるべきことが減少した場合には、当然、逆の効果となって現れます。

つまり、覚えるべきことを 1000 個から 500 個に減らすと覚えるのに必要な労力は $1/2$ になるのではなく $1/2 \times 1/2 = 1/4$ 程度に減少するという事です。

いかがでしょうか。

これで学習すべき事項を絞り込むことの真の重要性をご理解頂けたことかと思えます。

あなたも一度は「偏差値 30 の落ちこぼれが半年で東大に合格！」といった、とても信じられないような学習上の成功談を耳にしたことがあるでしょう。

ああいう話って、種を明かせば、ほぼ例外なくこの「絞り込む」ことがうまくいっただけのことなのです。

つまり、あなただけってこの「絞り込む」ということに成功すれば、周囲の人の度胆を抜くような合格劇を演じることも十分可能だということですね。(ニヤリ)

いずれにしても、あなたが合格するのに必要な労力を軽減するのに絶対に必要なことなので是非、実践して下さいね。

ちなみに宅建試験における上位 20%の重要事項って、なんだか、おわかりですか？

はい、正解です。

もちろん過去問ですね。

決してお忘れにならないように。

※補足

なお、宅建以外の他の資格を受験するにあたって上位 20%の重要事項を見極めるに際しては、その資格についての勉強法を紹介した本やサイトを複数、参照して、検討するようにして下さい。

この際、注意しなければならないのは大手資格スクールの先生は、比較的、学習すべき範囲を広く設定したがる傾向にあるということです。（たとえば宅建試験で言えば判例対策をすることを勧めるなど。）

おそらくは、受験生から批判を受けることを防ぐ自己防衛的な意味合い（試験に出ないといったことが出るとバッシングを受ける可能性がありますよね。）、さらには資格スクールのビジネス上の指針に配慮するという意味合いがあるのでしょう。

ですので、大手資格スクールの先生の示す学習すべき範囲は、ものすごく時間的な余裕がある場合の最大範囲と捉え、「そこからどのように絞るか」といった視点で情報を集めていくと良いと思います。

間違っても大手資格スクールの先生の示す学習すべき範囲をそのまま鵜呑みにしないように。

ちなみに上位 20%の重要事項の見極め方の参考までに、お話ししておきますと、私の場合、行政書士や CFP の試験についても過去問以上のことはやっていません。

しかし、それでも、十分な余裕を持って合格しています。

これに対して司法書士試験の勉強をしていた時には、「少しでも出題される可能性のあることは徹底的に潰す」というようなスタンスで勉強していました。

まわりの人のほとんどが、そのようなやり方で勉強をしていたので、そうしないと合格できないものと考えてしまっていたわけです。

これでは、よほど元々の才能にでも恵まれていない限り、合格できるはずがありませんよね。

そもそも司法書士試験は宅建の5倍程度は覚えるべきことがある試験なのですから。

短期一発合格をしている人の話を参考にして絞り込むということをやっていれば、きっと結果は変わっていたことでしょう。

あなたは私のような目に遭わないためにも、しっかりと絞り込むということをやして下さいね。

3. 学習計画を立てる。

「学習計画を立てる。」というのも非常に重要なことです。

なぜなら、「学習計画を立てる。」ことは一番手軽に実践できる効果的なモチベーションアップの方法だからです。

以下、簡単に説明していきますね。

資格試験の勉強をする場合の最終的なゴールというのはもちろん、試験に合格することです。

しかし、特に勉強を開始した当初はそのゴールってあまりにも遠すぎると思いませんか。

人間は遠すぎるゴールを目指しては現実感をもって頑張ることができません。

だから、学習計画を立てることによって、比較的簡単に達成することができる小さなゴールをたくさん設定し、モチベーションを維持しようということなのです。

あなたも学生の頃に参加したマラソン大会などで「次の電信柱まで、次の電信柱まで。」と
思いながら頑張ったという経験がありませんか。

あれと同じことですね。

私のところには全国の受験生から宅建試験の勉強についての相談が寄せられます。

その中でも結構な割合を占めるのが、「やる気が出ない。」などといったモチベーションに関
する相談です。

そして、モチベーションに関する相談をしてくる人はほぼ例外なく、学習計画を立てていま
せん。

つまり、はるか遠くの合格というゴールだけをたよりに日々の勉強を頑張ろうとしている
のです。

これでは、よほど意志が強い人でない限り、頑張ることができないのは当然のことですよ。

- ・普段は遠くのゴールをあまり意識せず、毎日のゴールを達成することだけを考える。
- ・そうやって毎日のゴールを達成しつづけた結果、気づいたら合格というゴールに到達して
いた。

これが一番、モチベーションを下げずに合格というゴールに到達する方法なのです。

特に私のように意志があまり強くないタイプの人は、しっかり肝に銘じて下さい。

具体的な学習計画の立て方についてはあまり深く考える必要はありません。

合格するために必要な学習行動をすべて書き出し、それを学習することができる日数で割
ってやるだけで結構です。

学習計画を立てるに際して重要なのは、学習計画の緻密さなどではありません。

毎日のゴールが設定されていることなのです。

だから学習計画の立て方自体はこれぐらい大雑把なものでも全く問題ないということですね。

なお、学習計画はあくまで、計画にすぎませんから、不都合が生じれば、いくらでも事後修正して構いません。

たまに学習計画を立てたのはいいけれど、それを守れなくなって、そのまま挫折してしまうような人がいますが、それでは学習計画に縛られ過ぎです。

学習計画はあくまでモチベーション維持のためのツールにすぎないのですから、守ることができないなら守れる範囲のものに下方修正してやればいいのです。

もちろん、下方修正すれば、その結果、その年の試験に合格できなくなる可能性は高くなります。

しかし、そうだとした場合、勉強を挫折してしまっただけで1年をまるっきり、棒にふるよりはよほどマシですよ。

繰り返えしになりますが、学習計画はモチベーションアップのためのツールに過ぎません。

ですので、利用することはあっても、それに縛られることがないように十分、注意して下さい。

最後に

以上が「落ちこぼれが難関資格に短期一発合格した方法」になります。

読まれてみてどんな感想を持たれましたか？

「スゲー、とんでもないものを読んじゃったよ。」

そう感じられたあなた、おめでとうございます。

今後、あなたが資格試験の勉強で苦勞することは、おそらく、なくなるでしょう。

なにしろ、あなたは資格試験短期合格のための肝中の肝を腑に落ちて理解されたのですから。

「うーん、まあいいことは書いてあると思うけど、これで落ちこぼれが難関資格に短期一発合格することができるのかな。」

そう感じられたあなた、もう少しだけ頑張りましょう。

それでも宅建ぐらいの試験なら問題なく合格できるかもしれません。

しかし、さらに上を目指したいなら、何度もこのレポートを読み返して、書かれていることの凄さを腑に落ちて理解されるべきです。

そうしないと私が司法書士試験を受験した時のように何年、受けても不合格にということになってしまいますので。

いずれにしてもこのマニュアルに書かれていることは、資格試験に限らず、あらゆる試験を攻略するための肝中の肝です。

ですので、その凄さが今一つ、わからないという場合にも、まずは騙されたと思って試してみてください。

きっと、その試験の結果をもって、これらのノウハウの凄さをしっかりと思い知ることになると思いますので。

それでは最後になりましたが、当マニュアルで紹介したノウハウを活用されて、あなたが
難関資格の試験に見事、合格されることを心より祈念しております。

最後までお付き合い下り、誠にありがとうございました。

発行者 スマート・ライフ・コンサルティング 松村保誠
連絡先 yasusei71@gmail.com